

# 令和 4 年度 宮の原中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

## 1 教育目標（目指す生徒像含む）

- 基本目標 『未来を拓く日本人を育てる』
- 具体目標（目指す生徒像） ・創造性に富む人 ・心豊かな人 ・最善を尽くす人
- 校 訓 自主創造

## 2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

☆テーマ 『豊かな心をもって、自律・実践する生徒の育成』 — 希望・創造・感動 の校風をめざして —

今、日本の社会は、大きな変化の時代を迎え、多くの若者にとって、夢を抱きにくい社会になったともいわれている。しかし、社会がどのように変化しようと、人がその社会を生きていく厳しさは今でも変わらない。まして、生徒や家庭を取り巻く状況は現在、日ごとにその厳しさを増していると同時に、教育現場への要求は限りなく、私たちの眼前に掲げられている。

だからこそ、その社会を生きていく生徒たちは、困難や試練に負けずに生き抜いていく強さとたくましさ、そしてしなやかさをもつこと、人への思いやりや感謝する心、感動する心などを育てていくことが重要である。

そのためには、中学生という多感な時代に「希望・創造・感動」の世界を広げてやるのが本校では必要であるとする。希望は未来を創造し変えていく力、創造は生きる意欲と知恵、感動にはやる気を起こさせ、社会に生きて働く力や自己肯定感、生きる優しさを育む力がある。そのような校風をつくることによって、自律（自分で立てた規則に従って、自分のことは自分でやっていく力）・実践（粘り強く取り組み、それまでなかったものを作り出す力）する力が生徒一人一人に身に付くものとする。よって、その育成のために、全職員が生徒と正面から向き合って、生徒の一人一人の「よさ」を認め、ほめて伸ばす教育活動を実践していく。

## 3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○生徒の「生きる力」を育成するために個に応じた教育を進め、地域に根ざした活動を展開し、豊かな心、確かな学力、健康や体力の育成に努めます。
- (2) 教育目標の具現化をめざし、全教職員が意欲と使命感を持って学校経営に参画し、生徒や保護者等の信頼や期待に応える学校づくりに努めます。

[宮の原地域学校園教育ビジョン] 心豊かで 輝く子どもの育成

## 4 教育課程編成の方針

- (1) 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を目指し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成を重視した指導を徹底し、個性を生かす教育の充実を図るとともに、生涯教育の基盤を培うことをねらって教育課程を編成する。
- (2) あらゆる教育活動の中で、また、学校・家庭・地域社会が一体となり、「学びあい、喜びあい、励ましあう」活動内容及び場を設定し、生徒と教師、生徒同士及び地域の人々との交流を深めながら、お互いのよさを認め合い、信頼し合い、豊かな人間関係の構築を図り、特色ある学校づくりを目指した教育課程を編成する。

## 5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
  - ・豊かな心をもって、自律・実践する生徒の育成 — 希望・創造・感動の校風をめざして—
- (2) 学習指導
  - ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 —○発問・学習活動の工夫—
- (3) 児童生徒指導
  - ・心を育む教育活動の推進 —あいさつ・いじめ対策・生活のきまり—
- (4) 健康（体力・保健・食育・安全）
  - ・自分の健康や体力の向上・安全に高い関心を持つ生徒の育成
  - 教科体育・学校行事の充実と健康や安全意識の高揚—

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A 拡充 B 継続 C 縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す生徒の姿	A 1 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	①○わかりやすい授業を目指し、『宇都宮モデル』を踏まえて、どの授業でも、「課題提示」と「振り返り」の習慣化、生徒のコミュニケーション能力を高める授業展開の工夫を行う。	B	【達成状況】教職員の肯定的回答は100%で目標を十分達成した。前年度を 2.0 ポイント、市中学校の平均を 5.2 ポイント上回った。 【次年度の方針】今後も引き続き、落ち着いた授業に真面目に取り組める雰囲気作りを大切にする。また、小学校とも連携して、 <u>毎回の授業における「課題提示」と「振り返り」の習慣化、更なるコミュニケーション能力向上の工夫を図る。</u>
	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	① 通常の学校生活や学校行事など、様々な機会を捉えて、思いやりの心の大切さを指導していく。 ② 道徳の授業では、指導内容項目「B-(6) 思いやり、感謝」の指導に重点をおいて、生徒の心に響く授業展開を工夫する。	B	【達成状況】教職員の肯定的回答は 97.8% で目標を十分上回った。前年度を 3.9 ポイント、市中学校の平均を 4.0 ポイント上回った。 【次年度の方針】些細なことであっても「思いやりのある言動」を取った生徒を見逃さず情報収集し、個別に褒めたり、時には全校にその言動を紹介して称賛したりする。また、道徳の授業で指導内容項目「B-(6) 思いやり、感謝」の指導に更に力を入れていく。
	A 3 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上	① ○同一歩調で組織的に生徒指導を進める。生徒の規範意識を高めるとともに、リーダーを育成し、自立的な生活態度を育てる。 ② 計画的な巡回指導、生徒一人一人に目を向けた細やかな指導を通して、問題の早期発見・早期解決・再発防止に努めるとともに、家庭と連携しながら長期的な視野で生徒の変容を支援する指導体制作りを進める。	B	【達成状況】生徒の肯定的回答は 93.6% で目標を上回った。前年度を 0.9 ポイント、市中学校の平均を 3.9 ポイント上回った。 【次年度の方針】生徒が安全に楽しく学校生活を送ることができるよう、教職員が常日頃より、 <u>問題行動の予防・早期発見・早期解決・再発防止</u> に向け、組織的に対応していく。また、学校行事や生徒会活動、部活動などを通して、リーダーの育成に力を入れ、自治的・自立的な集団となるよう支援していく。
	A 4 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上	① ○日常の教育活動全般を通して、相互の人格を尊重し合う態度を育てるとともに、定期的実施している生徒会によるあいさつ運動や、教職員からの積極的な声掛け等により実践力をつける。	B	【達成状況】教職員の肯定的回答は 95.7% で目標を上回った。前年度とほぼ変化が見られなかった。市中学校の平均を 8.4 ポイント上回った。 【次年度の方針】日常の教育活動全般を通して <u>お互いの人格を尊重し合う態度、そのためのあいさつの重要性をしっかりと指導</u> していく。そして、実践としては生徒会の定期的なあいさつ運動や、教職員の登下校指導の際のあいさつ励行等に継続して力を入れていく。

<p>A5 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。(A7共通)</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 「宮・未来キャリア・パスポート」の活用。小学校と連携した「キャリア教育における基礎的・汎用的能力」の実態把握アンケートの実施など、継続的なキャリア教育を行い、生徒が主体的に将来の目標に向かって諦めずに粘り強く学習や運動などに励み続けることの大切さを指導していく。</p> <p>② ○進路指導主事を中心に、3学年はもとより1、2学年の保護者会等においても生徒及び保護者に進路講話を行う。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答が87.9%で目標を上回った。前年度を3.4ポイント、市中学校の平均を2.7ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】今後も小学校と連携した「キャリア教育における基礎的・汎用的能力」の実態把握アンケートの実施など、継続的なキャリア教育に力を入れ、生徒が自らの適性をつかみ、将来への夢や希望をふくらませ、実現に向けて今何をすべきなのかをしっかりと考えることができるようにしていく。また、進路指導主事を中心に、中学3年生になってからの進路指導ではなく、1、2年生のうちから職業人に学ぶ会や職場体験学習などをきっかけにして、家庭における職業や進路に対する話し合いの大切さを保護者に啓発していく。</p>
<p>A6 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 生徒会保健体育委員会や生活安全委員会を中心に、健康体力の向上や感染症を含む病気やけがの予防、登下校時や校内での安全な生活について啓発していく。</p> <p>② 保健体育科の授業や、養護教諭や生徒指導主事、交通安全係からの安全指導等として、知識を深めさせる。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】生徒の肯定的回答が93.1%で目標を上回った。</p> <p>新型コロナウイルス感染症に対する対策が定着してきたが、まだ収束が見えず、罹患したり濃厚接触者に指定されたりする生徒が増えたため、やや肯定割合が減る結果となったと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】生徒会保健体育委員会や生活安全委員会を中心に、生徒たちが自主的、自発的に健康や安全の大切さを学び合い、健康体力の向上や感染症を含む病気やけがの予防、危険を察知し、安心・安全な生活ができるような知識・技能を育てていく。また、保健体育科の授業や交通安全教室等を活用し、命の大切さも指導していく。</p>
<p>A7 生徒は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 道徳の授業において、特に指導内容項目「C-(12)社会参画、公共の精神」、「C-(13)勤労」に力を入れると共に、平日頃より「夢や目標をもって、社会に貢献していく」ことの大切さを指導していく。</p> <p>② キャリア教育の一環である2学年で行う社会体験学習（宮っ子チャレンジ）において、事前・事後指導も含めた充実させ、社会に貢献できることの素晴らしさや夢や目標を持つことの大切さを学ばせる。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答が84.8%でほぼ目標を達成した。前年度を3.2ポイント、市中学校の平均を3.7ポイント上回った。</p> <p>コロナ禍による将来への不安感と社会貢献の困難さを教職員も感じていると考えられるが、学校行事もほぼ再開され、生徒が生き生きと活動する場面が見られるようになったからだと考えられる。</p> <p>【次年度の方針】道徳の授業において、特に指導内容項目「C-(12)社会参画、公共の精神」、「C-(13)勤労」の授業に力を入れたり、2学年における社会体験学習を生かしたりすることによって生徒に自ら学ばせ、体験させ、「夢や目標をもって社会に貢献していくことの素晴らしさ」を指導していく。</p>

<p>A8 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①○小学校の「外国語活動」や「外国語」の指導内容の理解に努め、小中一貫教育・地域学校園の教科部会において連携を図りつつ、中学校の「外国語」の授業においてできる限り英語でコミュニケーションをとれるように指導していく。</p> <p>②A L Tにはできるだけ生徒との交流を持ってもらい、授業中のみならず、休み時間等の雑談等でも英語でコミュニケーションをとるよう促していく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が 78.3%で目標値を下回った。</p> <p>コロナ禍のため表現活動が引き続き制限されたことと、ALT の配置が年度途中から減ったことが肯定的回答低下の要因とも考えられる。</p> <p>【次年度の方針】<u>小学校の「外国語活動」や「外国語」の授業とも連携し、中学校の「外国語」と共に授業中に使う言語をできるだけ英語とするよう心掛ける。そのためにもA L Tをうまく活用し、授業や休み時間のコミュニケーションを英語で行うよう促していく。</u></p>
<p>A9 生徒は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①○小中一貫教育・地域学校園の教科部会において連携を図りつつ、社会科や道徳科、総合的な学習の時間に位置付けた「宇都宮学」を行い、「宇都宮の良さ」を自発的な学習を多く取り入れながら指導していく。</p> <p>② 道徳の授業において、特に指導内容項目「C- (16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する心」の授業を充実させていく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が 79.2%でやや目標値を下回った。前年度からは0.9ポイント上回った。前年度と比較すると生徒の肯定的回答はわずかな上昇であるが、保護者の肯定的回答は4.7ポイント下回った。学習の様子を各種たよりや学校HPを通して保護者や地域に発信するとともに、家庭でも話題になるような提案をしていく。</p> <p>【次年度の方針】総合的な学習の時間に「宇都宮学」を年間指導計画に位置づけるだけでなく、<u>小学校とも連携し社会科や道徳科で「宇都宮の良さ」に気付かせる自発的な学習を多く取り入れながら指導していく。</u></p>
<p>A10 生徒は、I C T機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 各教室の大型テレビにデジタル教科書等を映し出したり、1人1台端末を活用したりするなど、I C T機器を積極的に活用していく。</p> <p>② ○小中一貫教育・地域学校園として小学校低学年のうちからI C T教育に力を入れ、パソコン等の情報機器の活用に慣れ親しませていく。また、指導する教職員の研修はI C T支援員を有効活用し計画的に行う。また、調べ学習以外の図書室の利用方法を周知し、積極的な活用を促す。</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答が 93.5%で、目標値を大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】1人1台端末を、各教科・各領域だけでなくあらゆる学校活動において積極的に活用する。そのためには、<u>指導する教職員の研修を充実させ、校務等にも積極的に活用していく。</u>図書室は、教科の授業内容に合わせて、資料や辞書の利用が多い。調べ学習は、1人1台端末を使用することが多くなったが、図書室の利用や書籍資料活用と併用されているので、今後も積極的な活用を促していく。</p>
<p>A11 生徒は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 道徳の授業における指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」、「B-(14)家族愛、家庭生活の充実」の指導を充実させていく。</p> <p>② 体育祭における「高齢者招待（歓迎の言葉）」等の機会を捉え、平日頃より高齢者に対する感謝やいたわりの心を持つように指導していく。</p> <p>③○小学校に加えて、家庭、地域とも協力し合い、幼い頃から高齢者への感謝の気持ちを育てるような啓発活動を行う。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が 95.3%で目標値を大きく上回った。前年度を 1.0 ポイント、市中学校の平均を 2.8 ポイント上回った。</p> <p>【次年度の方針】道徳の授業における指導内容項目「B-(6)思いやり、感謝」、「B-(14)家族愛、家庭生活の充実」の指導を充実させていく。また、体育祭における「高齢者招待（歓迎の言葉）」等の機会を捉え、平日頃より高齢者に対する感謝やいたわりの心をもつように指導していく。更に、家庭、地域とも協力し合い、<u>幼い頃から高齢者への感謝の気持ちを育てるような啓発活動を行う。</u></p>

<p>A 12 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>① SDGs 等については、社会科や理科、技術・家庭科、道徳科、総合的な学習の時間等を中心に、教科等横断的な視点で各教科等の関連付けを図りながら教育課程を編成し、問題解決的な学習を充実させる。</p> <p>② 生徒会執行部による「届けよう、服のチカラ」プロジェクトへの参加や、生徒会福祉委員会による「ペットボトルキャップの回収」や「ベルマーク」収集に力を入れ、活動の中で自然と「持続可能な社会」に対する関心が高まるように支援していく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が 77.6%で、目標値を下回った。</p> <p>新しい評価項目となって4年目、リユースやリサイクルなど家庭生活や学校生活に根付いてき停るが、生徒自身が取り組める活動を通して、さらに自覚を持って取り組ませたい。</p> <p>【次年度の方針】社会科や理科、道徳科、総合的な学習の時間等を中心に主体的に学ぶことを大切にしながらしっかりと指導する。また、今後も生徒会活動において、子供服やペットボトルキャップの回収、ベルマークの収集等、具体的な活動を通して体験的に学ばせていく。</p>
<p>B 2 生徒は、学級での活動、生徒会活動、学校行事に自主的に取り組み、自分の役割や責任を果たそうとしている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 生徒会活動はもとより、学級活動や学校行事等を教職員の支援のもとで生徒が自主的、自発的に活動できるように計画し、実践していく。諸活動を行っていく中で、生徒の自主性や責任感を養っていく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が 94.0%で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】いまだコロナ禍で、大人数で同時に発声したり、体育館に3学年が集まったりすることはできないが、生徒会活動はもとより、学級活動や学校行事等を教職員の支援のもとで生徒が自主的、自発的に活動できるように計画し、実践していく。諸活動を行っていく中で、生徒の自主性や責任感を養っていく。</p>
<p>B 3 生徒は、健康を大切に、各種検診等で指摘された場合は医療機関で受診している。</p> <p>【数値指標】 保護者の肯定的回答が 90%以上</p>	<p>① 生徒会保健体育委員会の活動や保健体育科の授業を通して「健康の大切さ」について考えさせ、指導していく。</p> <p>② 養護教諭を中心に、「保健だより」等において「健康体力の向上」に役立つような記事を多く載せ、啓発していく。</p> <p>③ 各種検診で受診を求められた生徒に対して、保護者への通知や電話連絡等で受診を勧めていく。</p>	<p>【達成状況】保護者の肯定的回答が 94.5%で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】生徒会の保健体育委員会の活動や保健体育科の授業を通して「健康の大切さ」について考えさせ、指導していく。また、保護者とも連携し、各種検診で要治療の指摘があった場合には治療を受けるよう啓発していく。</p>
<p>B 4 生徒は、授業で分からないことについて、先生に質問している。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答が 85%以上</p>	<p>① 「主体的・対話的で深い学び」の実現には、授業等で分からないことについて先生に質問するなど主体的に学ぶことが大切である。個に応じたきめ細かな対応や、適切な質と量の家庭学習課題の定期的な提示やその確認に努める。</p> <p>② 教職員が今年度から完全実施される新学習指導要領を理解し、授業力の向上を目指した研鑽と修養に励み、分かりやすい授業の実践を通して生徒との信頼関係を築くことにより、生徒が先生に質問しやすい雰囲気を作り出していく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答は 86.6%で目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】「主体的・対話的で深い学び」が新学習指導要領において強調されている。授業等で分からないことについて教職員に質問するなど主体的に学ぶことが求められている。まずは、教職員が、新学習指導要領をしっかりと理解し、授業力の研鑽と修養に励む。分かりやすい授業を通して、信頼関係を築き、質問しやすい雰囲気を作り出していく。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">目 指 す 学 校 の 姿</p>	<p>A13 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 週1回の教育相談部会を充実させ、特別な支援を必要とする生徒の実態を共通理解していくと共に、具体的な支援策を立て、全職員に周知し、実践していく。支援策の検討に当たっては、SCやMSの指導、助言を十分に生かして実施していく。</p> <p>② 校内支援の推進と充実のために、市教育センターなどの専門機関による相談機関や医療機関等との積極的な連携を図り助言を得る</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答は87.0%で目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】毎週1回の教育相談部会を充実させ、特別な支援を必要とする生徒の洗い出しと実態把握を行うと共に、具体的な支援策を立て、全職員に周知し、実践していく。支援にあたっては、SCやMS、市教委や市教育センター、児童相談所等の関係機関、医療機関等からの助言、指導を十分に生かして実施していく。</p>
	<p>A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。</p> <p>【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 全教職員が「いじめはどの生徒にも起こりうる」との認識のもと、生徒の授業中の様子や、休み時間・給食時等の様子をよく観察し、些細な変化や、周囲の好ましくない雰囲気等を敏感に察知するよう心掛ける。</p> <p>② いじめの未然防止に向けて、年に4回行う早期発見のためのアンケートや、生徒会生活安全委員会が行ういじめ根絶集会等の様子をHPや学校・学年だより等を通して保護者や地域に発信していく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が96.0%、教職員の肯定的回答は97.8%で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】全教職員が「いじめはどの学校でも、どの生徒にも起こりうる」との認識のもと、生徒の授業中の様子や、休み時間・給食時等の様子をよく観察し、些細な変化や、周囲の好ましくない雰囲気等を敏感に察知するよう心掛ける。そして、そのことを担任や学年主任、生徒指導主事等に報告、相談し、具体的に聞き取りなども行い、<u>早期発見、早期対応、再発防止</u>に努める。</p>
	<p>A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。</p> <p>【数値指標】 生徒・教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 全ての生徒にとって居がいのある温かい雰囲気の学級経営に努める。</p> <p>② 小中一貫教育・地域学校園として小学校低学年のうちから不登校の傾向の見られる児童に対する適切な支援を小中が連携して検討、実施していく。</p> <p>③ 不登校傾向の表れてきた生徒に対しては、家庭と密に連携を取りながら、早期に週1回の教育相談部会で状況報告や支援策の検討を行い、全職員の共通理解の基で組織的に支援を進めていく。また、個に応じた支援ができるよう、環境を整えていく。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が95.5%、教職員の肯定的回答は93.5%で目標値を上回った。新型コロナウイルス感染症の影響がまだ見られるが、学級担任が安全・安心で、居がいのある学級経営目指し、個別の対応を行っている。</p> <p>【次年度の方針】<u>小学校から中学校に進学する時期にいわゆる「中一ギャップ」による不登校が増えるケースが多い。小学校との連携を強化し、切れ目のない支援を行うことが大切である。</u>また、夏休みなどの長期休業の後も同様である。いずれにしろ、教職員が家庭との連携の基で、些細な兆候も逃さずに互いに報告、相談を行う。更に毎週1回の教育相談部会を活用し、不登校傾向の見える生徒については早期に対応策を検討し、実施していく。</p>
	<p>A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 外国人生徒の実態に応じて、週1回の教育相談部会で状況の報告、支援策の検討を行い、全職員の共通理解の基で適切な支援、合理的な配慮を行っていく。</p> <p>② 週に1時間は、該当生徒に対して市教委の指定した日本語指導講師による指導を行う。</p> <p>③ 学級、学年を中心に、該当生徒を温かい雰囲気迎え入れることのできる環境を整える。</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答は87.0%で目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】該当生徒を温かく迎え入れることのできる集団作りを目指し、該当生徒の日本語能力等の実態に応じて、教職員が共通理解を図り、日本語指導の外部講師も含めた対応策を検討し、寄り添う姿勢を忘れずに実践を継続していく。</p>

<p>A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 学級での係活動、生徒会活動、部活動等で、生徒の自主的な活動意欲を高め、責任感や向上心を育てる。</p> <p>② 校訓「自主創造」を学校行事や生徒会行事の企画運営に生かすために、リーダー育成に力を入れ、生徒の自主的・主体的活動を積極的に取り入れながら、明るく活気のある教育環境の充実に努める。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が 89.6%で目標値をわずかに下回った。前年度を 3.0 ポイントポイント、市中学校の平均を 2.4 ポイント上回った。コロナ禍のため様々な活動に制限は残るが少しずつ実施できるものが増えているのが、肯定的回答が増えた要因と考えられる。</p> <p>【次年度の方針】「やらされる活動」ではなく、生徒が自ら進んで「自主的、自発的に行う活動」となるよう、各行事や学級活動等を計画し、生徒の達成感、自己有用感を高めていく。はじめと秩序のある学校生活を基本とするが、その中で笑顔あふれる授業や行事等になるよう実施方法や内容を検討していく。</p>
<p>A18 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 90%以上</p>	<p>① 「主体的・対話的で深い学び」の実現と分かる授業の展開を目指す。そのために総合訪問等の研究授業や授業研究会を通して授業力向上に努める。</p> <p>② 少人数・習熟度別学習、T・Tによる授業の内容・方法等の研究、全校体制で取り組む特別支援教育の充実等を通して、個に応じた学習の推進を図る。</p> <p>② 1人1台端末の活用や評価方法の研究に積極的に取り組む。</p>	<p>【達成状況】生徒の肯定的回答が 93.1%で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】新学習指導要領に準拠した「主体的・対話的で深い学び」を重視し、授業を実践していく。特に数学や英語については少人数・習熟度別学習やT T授業等を行い、個に応じた学習指導の推進を図る。また、取り扱う教材・教具（1人1台端末を含む）や評価方法の研究にも更に積極的に取り組む。</p>
<p>A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答が 90%以上</p>	<p>① 学校長を中心とした「チーム学校」の考え方の基で、教職員が保護者や地域の力を借りながら、生徒のために一致団結して教育活動を行っていく。</p> <p>③ 週1回の校務運営委員会において、行事や校務の改善点について提案し、予め具体策を検討しておくことで、効率的に職員の共通理解を図る。</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答が 84.8%で、目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】「チーム学校」の考え方のもと、教職員が保護者や地域の力を借りながら、生徒のために一つの方向に向かって一致団結して教育活動を行っていく環境を整えていく。また、楽しく仕事ができるような職員室づくりを全職員が心掛けていく。</p>
<p>A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答が 80%以上</p>	<p>①全職員の健康を守るためにも、出退勤時刻の把握を管理職が徹底し、ICTの活用や削るべき仕事は思い切って削っていくなど、業務の効率化を図る具体策を講じていく。</p> <p>③ スクールサポートスタッフやICT支援員など専門スタッフと連携し、教職員の負担軽減に取り組む。</p> <p>④ 個人的に時間外勤務が多い職員に対しては、個別に面談を行い、業務を効率化していくための指導・助言を行う</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答が 52.2%で目標値を大きく下回った。コロナ禍のため行われなかった学校行事や部活動の大会などが再開されことや夏休み前に行事が集中したこと、GIGAスクール構想の導入など教職員の負担感が大きかったことが原因と考えられる。</p> <p>【次年度の方針】コロナ禍により業務内容の精選や削減の検討が行なわれたが、今後も継続して業務の効率化に努める。また、勤務時間の長い教職員に対しては適切に助言、指導を行い、効率的な業務遂行を進めさせる。</p>

<p>A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① ○小中一貫教育を推進するために、地域学校園各小学校との情報交換や連携の推進に努める。</p> <p>② 「小中一貫教育・地域学校園」の取組内容について理解してもらうため、学校HPなどに活動の様子を掲載・更新に努め、各種たより等を発行することによって啓発と更なる協力を求めていく。</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答が 71.7% で目標値を大きく下回った。</p> <p>【次年度の方針】コロナ禍で行われなくなっていた、小中合同の活動も少しずつ再開されている。9 年間で育てたい力を明確にし、学習や児童生徒指導に組んでいく。また、活動内容について各種たよりやHP等で周知していく。</p>
<p>A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。</p> <p>【数値指標】保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 1学年においては、「総合的な学習の時間」における「農業体験」や「職業人に学ぶ」の授業等を通して、地域の方々の教育力の活用と特色ある教育活動を展開していく。</p> <p>② 2学年においては、「社会体験学習(宮っ子チャレンジ)」を通して、地域の企業等と連携しながら、キャリア教育をすすめ、特色ある教育活動を展開していく。</p> <p>③ 3学年においては、「保育体験」の授業等をより充実させ、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開していく。</p>	<p>【達成状況】保護者の肯定的回答が 82.1% で目標値を下回った。</p> <p>【次年度の方針】1学年における「農業体験」や「職業人に学ぶ」の授業、2学年における「社会体験学習」、3学年における「保育体験」の授業等をより充実させ、体験的な活動を通して、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開していく。また、地域未来会議に生徒会役員が参加し、普段の活動内容を説明したり、地域に対しての要望を伝えたりする活動は、今後も継続していく。</p>
<p>A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい生徒の育成に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>① 宮の原中学校地域協議会の提言等を取り入れた教育活動の推進、地域の行事等への生徒の参加を通して、家庭や地域、企業等と連携を図った生徒の健全育成に努める。</p> <p>② 諸活動や取組内容について、学校HPなどに活動の様子を掲載する。最新の情報に更新したり、毎月各種たより等を発行したりすることによって啓発を行い、さらなる協力を求めていく。</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答が 93.5% で、目標値を大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】地域協議会の活動、地域の行事等への生徒のボランティア参加、地域の企業等と連携した社会体験や保育体験等の諸活動を学校HPや各種たよりに掲載したりすることにより、活動内容の周知や活動への理解と協力を得ることに努めていく。</p>
<p>A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】教職員の肯定的回答が 90%以上</p>	<p>① 施設・設備面(ハード面)としては、校舎や体育館入口へのスロープ、階段の手すりや足下の滑り止め、エレベーター、多目的トイレの設置などを公的機関と連携して行っている。</p> <p>② 生徒指導面(ソフト面)としては、落ち着いた態度で生活できるよう、生徒主体で学校生活のルール作りを行う。また、安全に十分に配慮した部活動の実施を徹底していく。</p>	<p>【達成状況】教職員の肯定的回答が 95.7% で、目標値を上回った。市中学校の平均を 0.9 ポイント上回った。本校体育館が災害時の避難所になるため、コロナ感染症についての変更を加え、避難者初期支援マニュアルを改定した。</p> <p>【次年度の方針】本校のテニスコートや校庭は凹凸が目立ち下地が露出した状況で、整備が必要である。また、樹木が多く、害虫や伸びすぎた状況で、それらの対策を市教育委員会や本校PTAと連携しながら改善に取り組む。また、日頃より、生徒指導部を中心に校内環境を整えると共に、生徒への安全教育には更に力を入れていく。</p>

	<p>A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答が85%以上</p>	<p>① 全教科で1人1台端末を積極的に活用し、これまでの調べ学習や発表のためのパワーポイントの資料作りなどのほか、どのような活用法があるか実践例の収集を行う。</p> <p>② 校内ネットワーク環境と1人1台端末が整備に伴い、校内だけでなく家庭へ持ち帰っての活用についても充実させる。</p> <p>③ 毎朝、読書の時間を10分間設けるとともに、図書室の開放、図書室からの回覧文庫、学級文庫などを有効に活用させ、読書の習慣化を図り、豊かな心を育んでいく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答が93.5%で、目標値を上回った。</p> <p>【次年度の方針】1人1台端末が導入されて2年目となるが、各教科・各領域だけでなくあらゆる学校活動において積極的に活用されている。今後は、各教科の学習でeライブラリアドバンスの活用をさらに進めていく。引き続き、指導する教職員側の研修を充実させ、校務等にも積極的に活用する努力を行っていく。また、図書の有効活用を目指し、図書室の図書を充実させ、ICTとの併用で積極的な活用を促す。</p>
	<p>B1 教職員は、自己の役割と責任を自覚しながら、連携と協力を通して、明るく活気ある職場作りに努めている。</p> <p>【数値目標】 教職員の肯定的回答が90%以上</p>	<p>① 職員会議、校務運営委員会、学年会、時間割に位置づけた生徒指導部会や教育相談部会等を通して、職員間の共通理解を深め、協力・連携に基づいて協働で職務の遂行にあたる体制づくりに努める。</p> <p>② 一人一人が意識して「明るく活気ある職場作り」に努めるとともに、「報・連・相」がスムーズに行える「風通しのよい職場」を作り出していく。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】教職員の肯定的回答が97.8%で、目標値を上回った。学校独自の質問のため、市平均は出ていない。</p> <p>【次年度の方針】教職員が「明るく活気ある職場」で働いているということは自ずと生徒に好ましい影響を与え、良き教育活動が行えるのは自明の理である。多くの教職員が本校を職場として「働きやすい」と認識しているということで、今後もこのような高い数字が維持できるよう、更にお互いを助け合いながら「風通しのよい職場」を意識していく。</p>
<p>本校の特色・課題等</p>	<p>B5 教職員は道徳教育の推進を通して、生徒と教師の相互理解に基づく温かい人間関係づくり、心豊かな生徒の育成に努めている。</p> <p>【数値指標】 教職員と生徒の肯定的回答90%以上</p>	<p>① 学年体制で取り組む道徳研究授業と校内研修（特に評価の方法）、全時間分の資料と展開例の整備と活用等を通して、教職員一人一人の指導力向上に努める。</p> <p>② 道徳の授業と日常の教育活動の関連を図った指導を通して、生徒の道徳性を育むとともに、学校生活の向上や生き方の探求に努めようとする態度を育てる。</p> <p>③ 保護者に本校での取組を知ってもらうために、学校HPを利用した情報発信をするとともに、授業参観や学校公開で道徳の授業を参観できる機会を検討する。</p>	<p>B</p> <p>【達成状況】教職員の肯定割合は93.5%で目標値を上回ったが、生徒の肯定割合は81.9%で目標値にとどかなかった。学校独自の質問のため、市平均は出ていない。</p> <p>【次年度の方針】これまで本校は、道徳教育に力を入れてきたが、「道徳」が教科化後も変わらず取り組んでいる。年間指導計画（自校化）や、授業の展開、評価法等を継続して研究していく他、外部や校内での研修を充実させ、教職員の授業力を高めていく。また、公開授業等で保護者に実際に参観してもらい、アンケート等で意見や感想をもらい、授業に生かしていく。</p>

## 〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

生徒の学習に関わる項目 A1、A18 や生活や意欲に関する項目 A3、B2 を見ると、いずれの質問に対しても教職員、保護者、生徒の肯定割合が高く、学校生活全般、学習や生徒会活動、行事に前向きに取り組む生徒の姿が見える。

良い点は、あいさつやマナーの良さ、他の人に対する思いやりがある点で、A2、A3、A4 の結果に表れており、教職員、保護者、地域住民、生徒のどの評価者からも肯定割合が高い。

A9、A10・25、A12 の質問では、宇都宮学や SDGs についての今日的な学習、ICT の活用は進んでいるが、指導内容や指導法の研究をさらに進める必要がある。コロナ禍で、生徒が自主的に取り組めるボランティア活動等が減っているため、小中一貫・地域学校園の取り組みが積極的に行われている印象が薄い。内容を精選して生徒が主体的に取り組めるようにし、広報活動で全体への周知を行う必要がある。教職員の肯定割合が特に低かった A20 の働き方改革に関しては、特定の時期に集中しないように学校行事の計画を立てたり、実施方法の工夫をしたり、今ある仕事をいかに効率的に進めるのかそれぞれが検討改善したりして今後も取り組んでいく。

## 7 学校関係者評価

特に肯定的回答が多いのは、A1、A2、A3、A4、A6、A11、A17 の質問項目で、保護者地域住民ともに 90% を超える結果となった。そこから、生徒が明るく前向きに、優しく思いやりの心をもって秩序ある学校生活送っていると受け止められていることがわかる。A10 の保護者評価は前年度から伸びているが、肯定割合は 70.0 で十分であるとは言えない。一人一台端末や図書の活用状況についてさらにわかりやすく知らせたり、家庭での活用方法を再考したりする必要がある。

保護者評価で特に肯定割合が低い項目としては A9 の 65.8 であるが、令和 3 年度から総合的な学習で始まった「宇都宮学」により、宇都宮の良さについての生徒の知識量は増えている。今後さらに、私たちが住む宇都宮について、家庭で話題にするような機会を提供していく。同じく肯定割合が低い B4 については、生徒の 82.9 とはかけ離れた数値となっている。今後はさらに生徒にわかる授業を展開していくことに加え、教師が生徒に向き合える時間の確保、今年度から始まった「地域未来塾」での放課後学習サポートの継続等に積極的に取り組んでいく。

地域住民の方からの評価は、おおむね高評価であるので、地域協議会や地域未来会議等で積極的に学校の取組みについて発信し、さらに理解と協力を得られるよう努めていく。

## 8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・本校の教育活動や学校運営については、前年度までと同様に肯定的に評価されている。特に A1「生徒は、進んで学習に取り組んでいる」、A2「生徒は、思いやりの心をもっている」、A3「生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている」、A4「生徒は、時と場に応じたあいさつをしている」、などの質問項目が高い数値を示し、落ち着いて秩序のある中で教育活動が行われていることが現れた数値となっている。これらの項目は、中学校だけの指導によるものでなく、小学校低学年のうちからの指導の蓄積が大切であるため、今後も学校園における小中一貫教育に力を入れ、小学校との連携に努めていく。

・A14「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している」については、教職員や生徒の評価は高いが、保護者の評価は 76.2% で決して高いとは言えない。保護者にとって、「いじめ」については大きな関心事であり、心配事である。本校は、年 4 回の「明るい生活アンケート」を実施し、「いじめ」に関して早期発見、早期対応、再発防止に努めている。いじめの発生率は低く、発生した場合の解消率も高いが、今後もいじめの無い学校を目指し、小さなトラブルにも丁寧に対応し、生徒に粘り強く指導をしていくことに加え、保護者と連絡を取り合い、協力を仰いでいきたい。また、保護者に対して、保護者会や家庭訪問、三者懇談等を利用するなどの方策で、安心して本校に通わせることができるよう説明する機会を作っていく。

・A9「生徒は、宇都宮の良さを知っている」、A10「生徒は、ICT 機器や図書等を学習に活用している」、A12「生徒は『持続可能な社会』について関心をもっている」などの新しい質問項目は、現代社会の課題の解決に向けて欠かせない質問項目であり、徐々に数値が上昇してきた。本校においては更に校内研修の充実を図るなどの具体的な方策を取り、また小中一貫教育において、小学校と連携し 9 年間を通して育てたい力を明確にしていくことも重要となる。

・令和 2 年度からの新たな質問項目の A20「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」については、肯定的回答が依然として低い。特に中学校においては部活動改革が、時間外勤務削減の大きな鍵であり、早急の課題である。加えて、学校における働き方改革に関する緊急対策として平成 29 年 12 月の示された業務の役割分担・適正化を進めるための取り組みを着実に進められるよう、多方面に協力を要請するとともに、教職員の意識改革にも取り組んでいく。

